

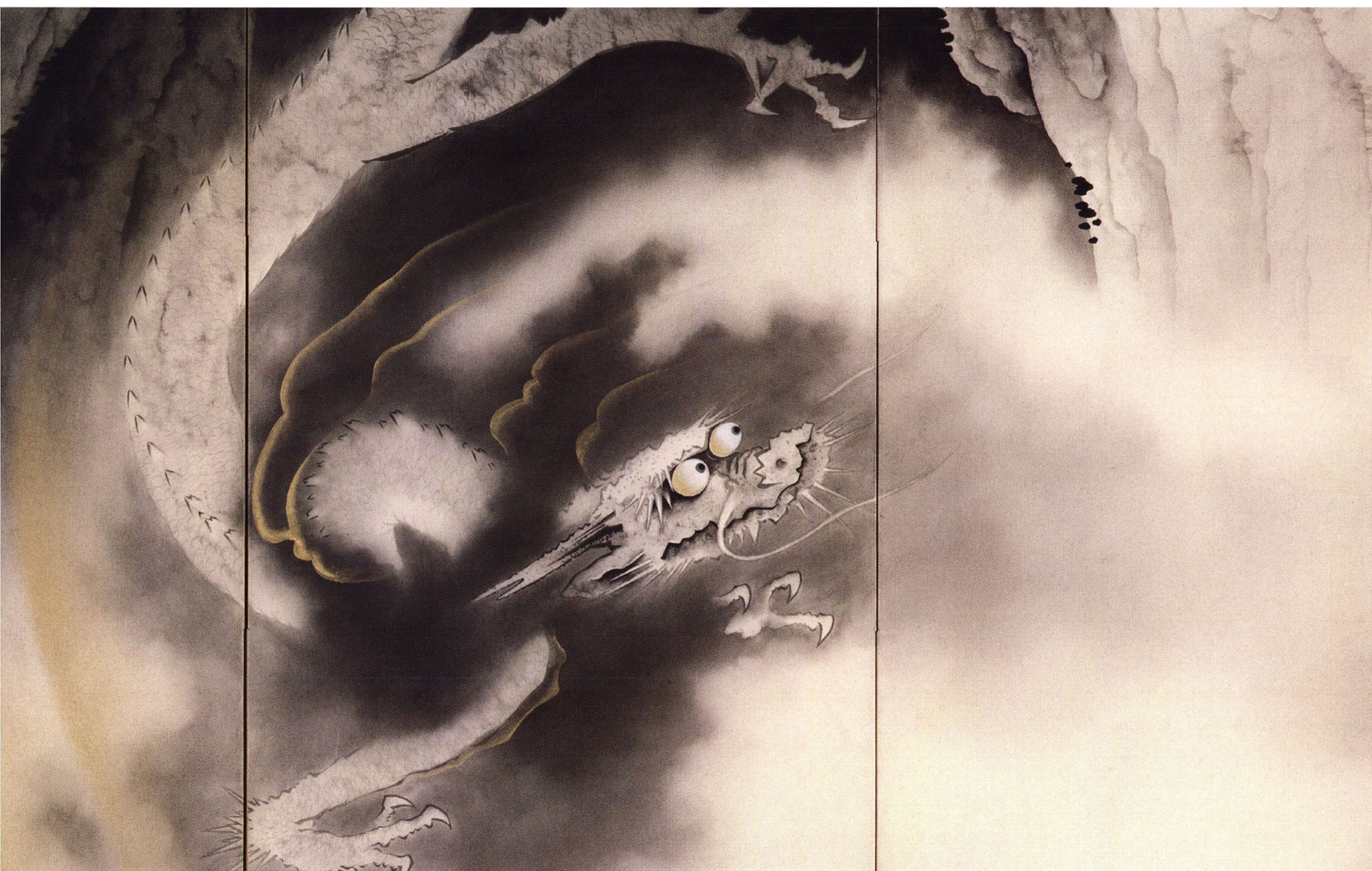
16 龍蛟躍四溟 横山大観

六曲二双

昭和十一年(一九三六) 紙本墨画金彩
各一七七・三×三七四・四

飛沫を上げる波、巻き上がる雲の中に二頭の龍と一頭の蛟(みずち・龍の一種、角がなく蛇に似て四本の足がある)が描かれている。昭和十一年に開催され、一回限りで終わった改組帝展への出品作であり、展覧会終了後に作者より献上された。横山大観(一八六八―一九五八)は、昭和十年(一九三五)に美術界の挙国一致を目指す文部大臣松田源治の要請を受けて、帝国美術院の改革に加わり、翌年の第一回改組帝展には日本美術院を率いて参加した。自らが中心となって関わった展覧会への出品ということもあり、大観は開催前から献上を表明するほどに並々ならぬ意欲をもって本図を制作した。

右隻に記された画賛「風雲馳九域 龍蛟躍四溟(中国全土に馳せる風雲と四方の海に躍る龍の意)」は、中国北斉時代の皇帝による祭文の一節であり、献上を踏まえて天皇そして日本の前途を祝福する意味が込められている。そしてこの龍や蛟の図様は、中国宋の画家陳容による《九龍図巻》(ボストン美術館蔵)からの影響が指摘されている。本図の制作にあたり、大観は参考となる作品をもとめて東京帝室博物館(現・東京国立博物館)にも問い合わせているが、応挙の龍の絵ならあるとの答えに対し、それでは参考にならないと観覧を辞退している。また「龍の画は支那でも非常に古くからあつたもので、漢代の頃のものを見ると、極めて氣勢の鋭いものである」(『大毎美術』昭和十一年三月)と語っており、このことから本図は日本の雲龍図屏風ではなく、中国古画の龍図を強く意識したものであることが分かる。本図を見た鑄木清方は「(前略)この繪は超時代的である。何時の時代といっても直ぐ考へられない程、古い時代を感じさせる」(『美術』昭和十一年四月号)と賞賛した。



- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

古典再生 — 作家たちの挑戦

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 72

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 黒川廣子

発行 宮内庁

平成二十八年三月二十六日発行

© 2016, The Museum of the Imperial Collections, Sanjūmaru Shōzokan